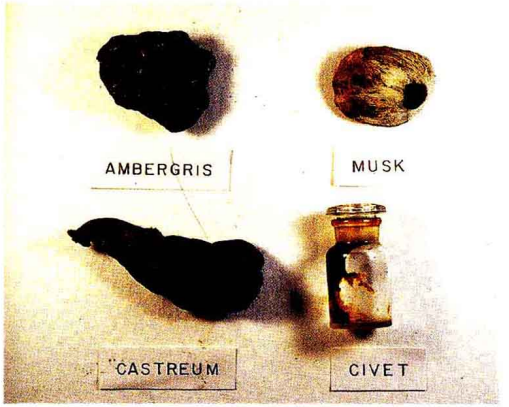
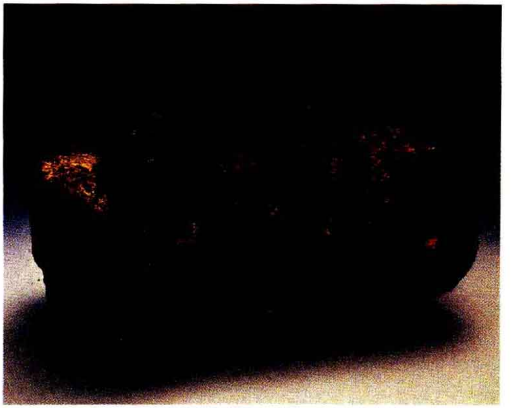
写真イラスト提供会社

稲畑香料株式会社
株式会社永廣堂本店
小川香料株式会社
三栄化学工業株式会社
塩野香料株式会社
曽田香料株式会社
高砂香料工業株式会社
日本ドラゴコ株式会社
ハーマン・アンド・ライマージャパン株式会社
長谷川香料株式会社
フロラシンス・ローチェ株式会社
株式会社ロベルテ日能商店



⊙アニマル（アンバーグリス，ムスク，カストリウム，シベット）



⊙アンバーグリス

⊙イランイラン

⊙イリス

⊙オークモス

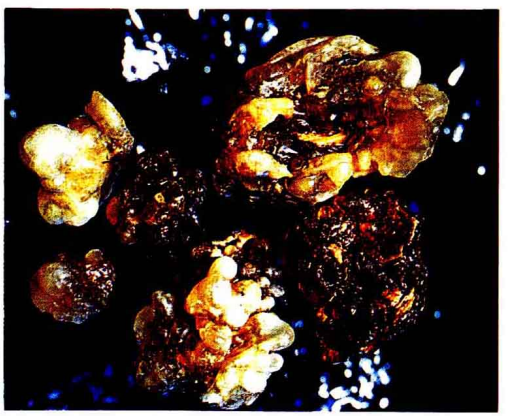
⊙ガーデニア

⊙クローブ

⊙ジャスミン（黄色）

⊙ジェネ

⊙スズラン



⊙スチラックス

⊙ナッツメグ

⊙ナルシサス

⊙ハッカ

⊙バニラ

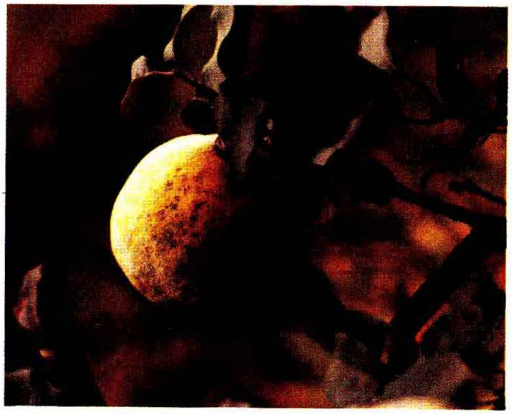
⊙ハネーサックル

⊙パパイヤ

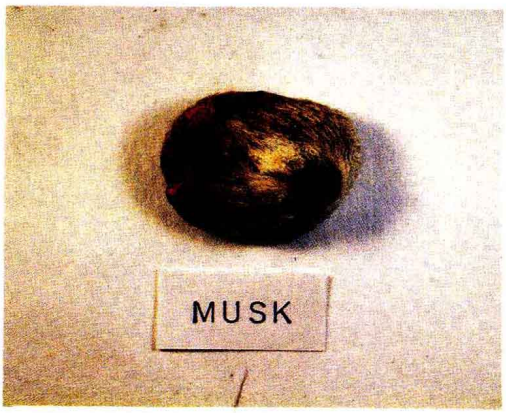
⊙ブルーベリー

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

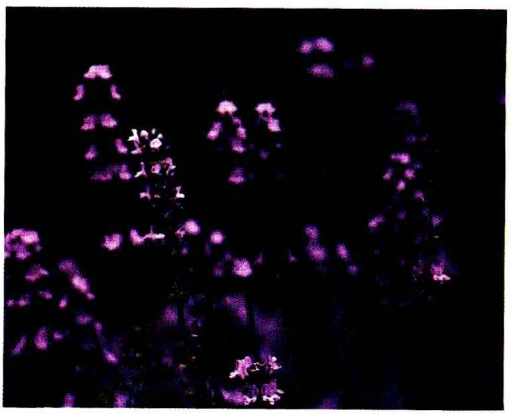
⊙ペパー



⊙マルメロ(「カリン」参照)



⊙ムスク



⊙ラベンダー

⊙リラ

⊙ローズ

発刊にあたって

植物性香料の種類は1500を数えるといわれていますが，その中で香料業に実用されているものについて，古くはArctander氏の“Perfume and Flavor Materials of Natural Origin”(Elizabeth, N. J., 1960)，新しくはLawrence氏の“Progress in Essential Oils”(“Perfumer and Flavorist”誌に掲載）などの文献がありますが，日本香料協会は約10年前にこれらを親しみやすく読む目的のために，植物の部位，すなわち花，葉，幹，根，果実，樹脂および動物などに分けてそれぞれの精油について記述し，数回にわたって特集号として発刊してまいりました．

今回それらを増補改訂して180項目を以て一冊の本としてまとめ，日本香料協会の設立40周年（1987年）の記念事業の一環として刊行する企画を立てました．しかもそれは以前のものの再刊ではなく，その後の内外の香料精油会議の報文を参照し，実際的経験によって最新のデータを盛り込みました．本書の執筆者は従来の日本香料協会編集委員会のメンバーであり，それぞれの項目について最も適格な人々であります．本書が業界，学界，一般香料愛好家の諸氏の座右の書として必ずやお役に立ちうるものと存じます．

終わりに，本書の刊行に多大の尽力をされた日本香料協会編集委員の諸氏ならびに出版に種々ご配慮を得た株式会社朝倉書店に厚くお礼申し上げます．

1989年5月

日本香料協会会長　冨樫英一

◎監　修

諸江辰男　日本香料協会理事，高砂香料工業株式会社

◎編集委員

秋山　孝　長谷川香料株式会社
伊藤仙次郎　小林香料株式会社
入江義人　三栄化学工業株式会社
川崎通昭　高砂香料工業株式会社
越田善太郎　株式会社永廣堂本店
志賀　實　塩野香料株式会社
園田治三郎　曽田香料株式会社
司　英隆　豊玉香料株式会社
古川　靖　長岡香料株式会社
真下又藏　小川香料株式会社
松倉十一　稲畑香料株式会社

◎執筆者

秋山　孝　長谷川香料株式会社
芦田久満　曽田香料株式会社
阿部正三　曽田香料株式会社
伊藤仙次郎　小林香料株式会社
石坂みつき　小林香料株式会社
磯　雅樹　長谷川香料株式会社
市川英明　長谷川香料株式会社
市川祐司　長谷川香料株式会社
市川陵次　長谷川香料株式会社
市村信友　曽田香料株式会社
今川邦彦　三栄化学工業株式会社
内山　隆　曽田香料株式会社
大崎和彦　稲畑香料株式会社
大島宗之　長谷川香料株式会社
大野幸雄　長谷川香料株式会社
長田　洋　長谷川香料株式会社
加藤　豊　曽田香料株式会社
川合俊司　長谷川香料株式会社
勘角長之　株式会社永廣堂本店
木村　孝　長谷川香料株式会社
工藤由紀子　小林香料株式会社
越田善太郎　株式会社永廣堂本店
古藤仁己　稲畑香料株式会社
五味俊彦　長谷川香料株式会社
斉藤　司　長谷川香料株式会社
佐藤敏弥　高砂香料工業株式会社
佐藤善一　株式会社永廣堂本店
志賀　實　塩野香料株式会社

島田　貢　稲畑香料株式会社
菅原俊也　長谷川香料株式会社
鈴木敏信　長谷川香料株式会社
園田治三郎　曽田香料株式会社
高垣仁志　曽田香料株式会社
高島靖弘　高砂香料工業株式会社
武田明積　長谷川香料株式会社
司　英隆　豊玉香料株式会社
土門　徹　小川香料株式会社
所　一彦　高砂香料工業株式会社
豊田高明　高砂香料工業株式会社
中野靖司　小林香料株式会社
野崎倫生　高砂香料工業株式会社
萩原忠孝　小林香料株式会社
服部錬三　高砂香料工業株式会社
広瀬和男　稲畑香料株式会社
広山　均　長谷川香料株式会社
藤田　誠　長谷川香料株式会社
藤森幹三　長谷川香料株式会社
舟茂洋一　曽田香料株式会社
古川　靖　長岡香料株式会社
古屋賢治　長谷川香料株式会社
本間延実　曽田香料株式会社
真下又藏　小川香料株式会社
松浦佑次　曽田香料株式会社
松倉十一　稲畑香料株式会社
三上杏平　小林香料株式会社
宮田佳和　長谷川香料株式会社
吉倉正博　三栄化学工業株式会社
鷲野　乾　三栄化学工業株式会社

（五十音順）

凡　例

1.　項目名と配列のしかた

a)　項目名はカタカナ名をゴチックで記し，次に該当する外国語（主に英語）を付して項目見出しとした．

［例］**アカシア**　Acacia

b)　配列は五十音順により配列した．

c)　濁音・半濁音は相当する清音として，拗音・促音はひとつの固有音として取り扱った．また，延音“ー”は配列のうえで無視した．

d)　項目名に別の表現があるときには，項目見出しの次に（　）して入れるか，説明文中に加えた．

2.　用　語

物や方法に関する用語（［例］アブソリュート，水蒸気蒸留など），香気の表現用語については次頁以後の“用語の説明”で解説し，項目中では説明を省いた．

3.　索　引

和文索引（五十音順），欧文索引（アルファベット順），学名索引（アルファベット順）をつくった．全項目に及び，文中からも必要な用語をとりあげた．

4.　その他

香気成分の項には，ものによっては呈味についても記載した．

用語の説明

A. 物・方法用語

●アコード (Accord)

香料を調合するうえでの香りの調和のことで，また調和のとれた香料の処方のこともいう．いろいろな原料香料を選び，その組み合わせと割合を変えて，創ろうとするイメージの香りを調合する．

●アブソリュート (Absolute)

天然香料で重要な一つの形態をいう．コンクリートはロウ分を多く含み，香料の調合のときに不溶物が生じるので，コンクリートをさらにエチルアルコールで処理してアルコール可溶物を抽出し，冷却してロウ分などの不溶分をろ別したあと，アルコール溶液からアルコールを留去して得られる，着色した少し粘稠の液体である．一般に花から得られるものが多い．

●アンフルラージュ (Enfleurage)

天然香料製造の一つの方法であり，古くは一般的な方法であったが，現在ではほとんど行われていない．チュベローズ，ジャスミンなどの花から香料を得るのに用いられた．精製した獣脂を板状にして，その上に花弁を並べて花弁に含まれる精油を獣脂に吸着させる．何回か新しい花弁と並びかえ，精油の濃度を高める．得られた含精油獣脂をポマード (Pomade) と呼ぶ．

●エキストラクト (Extract)

動植物性香料原料から各種溶剤で香気（香味）成分を抽出し，これらの溶剤を留去，濃縮して得られたものの総称である．コンクリート，アブソリュート，レジノイド，オレオレジンなどがあり，チンキのような濃縮しないものも含める．

●エッセンス (Essence)

日本での香料としてのこの言葉は，食品香料の一形態をいう．水に透明またはわずかに濁って溶ける香料のことで，天然香料を含水アルコールで抽出した

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

抽出液を主体として，それに補強香料を調合する．エチルアルコールと水を含むことが特徴で，主として飲料や冷菓などの着香に用いられる．

●**オレオレジン**（Oleoresin）

植物の樹脂状分泌物であるが，比較的多量の精油を含有し，常温で液状を示すものをいう．しかし，現在では，植物の根茎，樹皮，葉，芽，果実，種子などから抽出して得られた抽出物を呼ぶことが多い．食品，飲料の着香と呈味に用いられる．

●**ガム**（Gum）

植物の樹脂状分泌物であるが，常温で固形のものを示す．

●**コールドプレス**（圧搾法）

柑橘類の果皮の油胞にある精油を採取する方法の総称である．古くは果皮だけを海綿や下金（おろしがね）で擦って油を得るハンドプレス法があったが，現在では機械化されて，果皮からの採油と果汁の搾汁を別々にする方法と，果実全体を一度に圧搾して，同時に採油と搾汁をする大規模な方法（インライン法）がある．柑橘油は熱に不安定なため，冷時採油する必要があり，そのためコールドプレス（Cold press）という．

●**コンクリート**（Concrete）

香料原料としての植物体，主に花から香りの精油を得るために，花弁を石油エーテルやベンゼンなどの炭化水素系の溶剤で抽出処理をする．得られた溶液から溶媒を留去すると，精油を含んだロウ状のものが得られる．これをコンクリートという．そのままではロウ分が多く，香料の調合に使用するためにアルコールで処理してアブソリュートとする．

●**水蒸気蒸留**（Steam distillation）

植物性原料から天然香料を作るのに広く行われる製法である．植物体に水蒸気を吹き込むと，破壊された油細胞が分離するか，または浸透圧で遊離した精油は，水蒸気と接触し，たがいに不溶の両液混合物の蒸気圧の分圧の和が1気圧を示したとき，精油は水蒸気を伴って蒸留される．精油成分の沸点は150～300°C付近のものが多いが，水蒸気蒸留法では水の沸点で留出することになる．草，葉，材，根など広く行われる方法であるが，熱に不安定な成分や水溶性の成分のものの採油には不都合がある．ローズやオレンジフラワーなどでは，この方法も行われている．大規模な採油ができる．

●**スペシャリティベース**（Speciality base）

新規な単品香料を核として，それに調和する単品香料を数種類組み合わせた，あるいは今までにない新規な組み合わせや配合比によって作られた，極めて特徴のある，しっかりとまとまった，個性的で拡散性の香りに富むベース香料のことをいう．

●**精油**（エッセンシャルオイル，Essential oil）

植物体に含まれる油分のうち，揮発性のある成分からなっている油をいう．植物体から水蒸気蒸留によって得られた油，柑橘油などがこれにあたるが，抽出によって得られた油も揮発性があり，精油の範囲に入れており，花から得たアブソリュートなどを花精油という．精油の成分としてはテルペン化合物が多いが，それ以外に脂肪族化合物，芳香族化合物も多い．

●**チンキ**（Tinc）

動植物の香料原料のアルコール抽出液のことをいう．アルコールを含んだまま使用する．香粧品用香料としてはムスク，カストリウムなどのアニマルチンキがあり，食品用香料としてはバニラチンキが主である．

●**ノート**（Note）

香りの全体もしくは一部の香調をいう．たとえばローズノートといえば，ローズの花の香調をさす．この場合は具体的な名称を使うことが多い．

また，全体の香りの中での時間的に変化する部分的な香りをトップ(Top)，ミドル（Middle），ラスティング（Lasting）ノートに分けて呼んでいる．トップノートは上立ちの香りであり，揮発度の高い単品香料で構成する．ミドルノートは中程度の揮発度の単品香料で構成する香気で，一般的には全体の香りの中心的な香気をさしていることが多い．ラスティングノートは残香であり，難揮発性の単品香料で構成し，いつまでもその香りが持続する．

このほかに，ボディ（Body）ノートまたはベース（Base）ノートという言葉を使うことも多く，全体の香りの基調を示す骨組みの香りをいう．香調によってトップノートからラスティングノートに属する単品香料の群にシフトする．またベースノートの言葉はラスティングノートやフィキサティブと同様の意味をもって使われることも多い．

●**バルサム**（Balsam）

植物の樹脂状分泌物であるが，成分的に安息香酸(Benzoic acid)，ケイ皮酸

(Cinnamic acid) などの芳香族カルボン酸が遊離酸または芳香族アルコールとのエステルとして存在し，これに樹脂分が溶解して流動性があるものをいう．

●**フレグランス** (Fragrance)

広義には，口に入れない製品用の香料をいう．香粧品香料と呼ばれ，化粧品，石けん，シャンプー，洗剤，芳香剤などの着香に用いられる．狭義には，香水，コロンなどの香りを主とした製品のことをいう．

●**フレーバー** (Flavor)

広義には，口に入れる製品用の香料，呈味料をいうが，普通は飲食品の着香に用いられる食品香料のことをいう．

●**ベース**または**ベース香料** (Base)

それ自体，それぞれいろいろと表現される香りの調合香料であるか，製品香料の調合用に使用される原料香料のことをいう．たとえばローズベースとかフゼアベースとか多くの種類があるが，ノートの項で説明した意味とは異なる．

●**変調剤** (モディファイヤー，Modifier)

基調の香りを変調，修飾する香りを構成する単品香料をいう．基調の香りにまろ味，広がり，ふくらみを与える．少量の使用で効果がある．

●**保留剤** (フィキサティブ，Fixative)

基調の香りを変えずに全体の香りを引き締め，全体の香りを持続させる効果のある，保留性の強い難揮発性の単品香料をいう．使用量は個々のケースで異なる．

●**マセレーション** (Maceration)

天然香料製造の一つの方法であり，古くは行われていたが，現在ではほとんど行われていない．アンフルラージュと同様に，精製した獣脂で花弁に含まれる精油を抽出する方法であるが，獣脂を加温して(60～90°C)，その中に花弁を入れて抽出する．得られた含精油獣脂をポマードと呼ぶ．

●**リカバリーフレーバー** (Recovery flavor)

回収フレーバーともいわれ，各種果汁を搾汁し，蒸留して濃縮果汁を製造する場合に，蒸留のはじめの時期には果汁の芳香成分を含む留出水（トップノート成分が多い）が得られる．一般には芳香成分が水に溶けた状態で得られた水溶液のことをいう．原料果汁に対して 150 分の 1 程度の量が得られる．処理果実が柑橘類の場合には，留出水からテルペン炭化水素類が主成分の油層が分離

され，このものをオイルフェーズ（Oil phase）という．

●**レジノイド**（Resinoid）

根，茎，地衣のような植物体の乾燥品，バルサム，樹脂などの植物性原料やシベット，カストリウムなどの動物性原料を揮発性溶剤，特にアルコールで抽出して得た有香物質含有の濃縮物をいう．可溶性樹脂を含み，主として香粧品用の調合香料に保留剤として用いられる．

B. 香気の表現用語

香りには世界で共通の表現方法はない．そのため，一般的には匂いのあるものにたとえたり（たとえば，花のような），より具体的な物の名で示したり（たとえば，バラの花のような），感覚表現用語を用いたり，情感を表す言葉を用いたりする．普通，香りの表現はこれらの言葉を組み合わせて行う．

1. 香りの質を表す用語

a) 物の名前を利用した表現用語

フローラル（Floral）または**フラワリー**（Flowery）：花のような（一種または複数の花の香りを思い起こさせる）

フルーティー（Fruity）：果実様の（パイナップル，アンズ，ナシ，プラム，モモ，イチゴなどの匂いを思い起こさせる）

アルデハイディック（Aldehydic）または**アルデヒド**（Aldehyde）：脂っぽい，アルデヒドのような（セクシーな体臭を思い起こさせる）

シトラス（Citrus）：柑橘のような（柑橘類の外皮からの香りを思い起こさせる）

アースィー（Earthy）：土のような（掘り返した土の若干のカビ臭さを伴った匂いを思い起こさせる）

タバック（Tabac）：タバコのような

バニラ（Vanilla）：バニラのような

ミンティ（Minty）：ハッカのような

ウッディ（Woody）：木の香りのような（芳香性の樹木を思い起こさせる）

メタリック（Metallic）：金属的な（硬さ，冷たさのある金属を思い起こさせる）

モッシィ（Mossy）：コケのような

グリーン（Green）：青臭い（露を帯びた葉や草またはこれを切った瞬間に発散する匂いを思い起こさせる）

ハーバル（Herbal）または**ハーバシャス**（Herbaceous）：ハーブのような，薬草的な（かすかなスパイスの香りを伴った青臭い葉を思い起こさせる）

スパイシー（Spicy）または**スパイス**（Spice）：香辛料のような（シンナモン，コショウ，ショウガ，チョウジなどを思い起こさせる）

バルサミック（Balsamic）：植物樹脂のような，バルサムのような

アンバー（Amber）：竜涎香のような

レザー（Leather）または**レザリー**（Leathery）：なめし皮のような

アニマル（Animal）：動物臭のような

ムスキー（Musky）または**ムスク**（Musk）：ジャコウのような

カンファー（Camphor）：ショウノウのような

b）　感覚用語を利用した表現用語

ライト（Light）：明るい・軽い，**ダーク**（Dark）：暗い［視覚的表現］

スイート（Sweet）：甘い，**ホット**（Hot）：辛い，**ビター**（Bitter）：苦い［味覚的表現］

ノート（Note）：調子，**ハーモニー**（Harmony）：調和［聴覚的表現］

ヘビー（Heavy）：重い，**ソフト**（Soft）：柔らかい，**ウォーム**（Warm）：暖かな，穏やかな［皮膚感覚的表現］

アロマティック（Aromatic）：香ばしい，**パンジェント**（Pungent）：ツーンとくる［嗅覚的表現］

c）　情感を表す言葉を利用した表現用語

エレガント（Elegant）：優雅な

デリケート（Delicate）：繊細な

セクシー（Sexy）：セクシーな

スポーティー（Sporty）：スポーティーな

フレッシュ（Fresh）：新鮮な

マイルド（Mild）：マイルドな

パワフル（Powerful）：力強い

フェミニン（Feminine）：女性的な

ヤング（Young）：若々しい

プレザント (Pleasant)：こころよい

パウダリー (Powdery)：粉っぽい

リッチ (Rich)：華やかな，芳醇な（一方，ジャスミン-リッチというときはジャスミンの香調が強いの意味に使われる）

2. 香りの強さを表す用語

ストロング (Strong)：強い

パワフル (Powerful)：強い

テナシャス (Tenacious)：持続性の

ディフューシブ (Deffusive)：拡散性のある

ロングラスティング (Long lasting)：持続性の高い

3. 全体的な香調を表す用語

香粧品香料の香調の表現，香料使用製品の香りの表現には，およそ2～3通りある．

(a) 1.および2.の表現用語の組み合わせによる

たとえば，スイートでフェミニンなアルデハイディックフローラルノート（オーダー，調）というような方法である．

(b) 具体的な商品名や物質名を用いる

たとえば，“Chanel No. 5”タイプのようなとか，“Camay石けん”のような，ジャスミンのような，ロージー（ローズ様の，Rosy)，Rose petal-like（バラの花びらのような）など

(c) 専門表現用語による表現

特にフレグランス製品の香りの説明，分類に用いられる．よく用いられるのは，次のようなものである．

① **シングルフローラル調** (Single floral note)

単純な，一種類の花の香り．

② **フローラルグリーン調** (Floral green note)

花園や草木から匂いたつ，自然の緑を想わせるさわやかな香り．

③ **フローラルブーケ調** (Floral bouquet note)

数種類の花の香りをブレンドし，調和させた香り．

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com